寶洞宿畑中蘊蓄堂謹製
水海道街角鬼怒川大案内

ほうとうしゅくはたなかうんちくどうきんせい　みつかいどう　まちのみどころだいあんない

ちうくん

水海道駅（関東鉄道常総線）
- 427m
二水会館 ※登録文化財（市立図書館敷地内）
- 615m
水海道入口碑
- 222m
天神社／一六神社
- 212m
亀岡町の道標
- 364m
報国寺
- 312m
水神宮
- 178m
水海道河岸跡
- 161m
矢口金物店
- 191m
五木宗煉瓦蔵 ※登録文化財
- 82m
豊水橋三代
鬼怒川遊泳会発祥地碑
- 246m
旧製糸工場の煉瓦塀
- 289m
茨城百景の碑（御城公園内）
大洪水水位記録碑
- 104m
水海道駅
- 543m
かまやばし
- 230m
報徳銀行
- 95m
諏訪神社
- 416m
大楽寺
- 165m
八幡神社
- 258m
水災記念碑
市村大明神の碑

**********うんちくコラム

水海道の街の東西を流れる鬼怒川と小貝川とは、古来、市街の南域において合流していた。このため、河川の氾濫が常態化しており、人が定住することも少なかったという。河川の氾濫防止と水田耕地の拡大のため、この両河川が分離されたのは江戸時代初期のことで、これにより整備された鬼怒川水運の隆盛と共に、水海道の発展が始まる。下の絵葉書は明治期後半の舟運の様子を留めた貴重な一枚であり、市街地のさる旧家に保存されていた。

お買いもの

煎　餅
天野屋　あとひきせんべい
天日干しの生地を、一枚一枚炭火で焼き上げる手造りの味。数に限りがあるため、お買い求めの際は事前にご確認を…

休 水曜、日曜 第２土曜日
TEL ０２９７（２２）０４１１

煎　餅
本橋煎餅　堅焼塩せんべい
塩せんべいの名の由来は、生地に加える塩。炭火を使い、店先で丹念に焼き上げる。秘伝の合わせ醤油が味の決め手。

休 日曜日
TEL ０２９７（２２）２１７３

煎　餅
桜井煎餅　水海道せんべい
生は自家製。朝早くからトントンと杵突く音が響く。味の仕上げが醤油のみというシンプルさが、実に旨い。

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０９１２

煎　餅
いおり庵
老舗が多く、煎餅激戦区の水海道に新規開店し定着した良店。味もさることながら、高級感の漂う品揃えが人気の秘密か!?

休 元日
TEL ０２９７（３０）９０００

乾　麺
土井製麺店
三代百年造り続けた実直さが味を支える。うどん・蕎麦・冷や麦・そうめん・ひも川（きしめん）と、お好みで麺をお選び頂けます。

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０１０２

**********うんちくコラム

せんべいごさんけ
煎餅御三家　「水海道土産には何がいいですか？」と地元の人間に聞けば、おそらく９割くらいの人は“煎餅か、乾麺”と答えるに違いない。水海道には煎餅屋も多く、それぞれに味わいのある煎餅で商いしているが、やはり左の３店が「御三家」であろうか。昔ながらの醤油味の煎餅で、いずれも直径10センチもある大判のもの。一枚食べれば、腹も満たされる。堅焼きなので、歯に難点のある方は避けた方が無難ではあるが、それを押し退けても食べたい味わいがある。
「御三家筆頭は、どちら…？」
それはお好みに合わせて、ご判断願うとしましょう。

だんご・焼きそば・かき氷
小島菓子店
草餅、桜餅、柏餅と季節に合わせたお餅に、正月用の餅。餅と云えばココが老舗。昔ながらのイスとテーブルで食べる焼きそば・かき氷に懐かしさが漂う。

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０５１０

串だんご・赤飯
伊勢屋
定番はだんごに赤飯、稲荷寿司。餡とみたらし、２種類の串だんご添加物なしの自然の風味で旨い。

休 木曜日
TEL ０２９７（２２）２２１０

お茶
玉水園
お茶は静岡、お求めやすい価格帯からご用意してます。

休 水曜日
TEL ０２９７（２２）２０３０

花魁堂
市街地に残り少なくなった文具店のひとつ。カタ仮名読みの看板が架かるので苦労はないが、花魁堂と書いて、カカイ堂。今度、店名の由来を聞いて見よう。

岩見石版印刷所
街一番の老舗の印刷屋。風情ある店構えがそれを裏付ける。決め手は昔懐かし赤ポスト。未だに現役活動中であるのが嬉しい。水海道来訪の記念に、ぜひとも一筆示して、ここへ投函してほしいものである。

花
はなゆう
休 火曜日
TEL ０２９７（２３）０５５０

祭用品・作業服
中島被服店
休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０４０５

あんパン
荒井パン店
創業時は和菓子店だったという老舗で、和風テイスト溢れるパンが魅力。人気のあんパンは、午前中には売り切れ、手に入れるには開店前に並ぶ努力が必要。

休 水曜日
TEL ０２９７（２２）０２５８

和洋菓子・クレープ
石塚製パン
人気のクレープは薄切りの食パンを包んだ不思議な食感。中身の季節のくだものの味が決まる。巷に溢れる焼き立てクレープとは一線を画した不思議な味わいをご堪能あれ。

休 不定休
TEL ０２９７（２２）１４５３

地　酒
竹村酒造
水海道の地に蔵を構えて二百有余年、「京の夢」「富士龍」の伝統の銘柄に、「瑠璃」が華を添える。醸造時限定販売の生原酒「上澄」が毎冬の楽しみである。

休 火曜日
TEL ０２９７（２３）１１５５

手造り豆腐
下野屋
良質の大豆で作る手造りの味、なめらか、と云うより軟らかすぎるのどごしではあるが、何故か毎日食べても飽きない味わい。

休 定休なし
TEL ０２９７（２２）０５６３

和菓子
浜田製菓
四季を取り入れた創作和菓子が魅力の和菓子店。水海道ゆかりの千姫さまの名を冠した千姫銅鑼（どら焼き）は人気商品。千姫さまとの関連が最大の謎。

休 第1･3月曜
TEL ０２９７（２２）１１７８

菓子パン
村井パン店
ガラス戸に貼られたパンの名前とお値段の貼り紙がなければ、誰もパン屋とは思うまい。隠れ屋系の雰囲気が購買意欲を刺激する

休 日曜日
TEL ０２９７（２２）０４６２

精肉・焼き鳥
肉のとりこし
自家で捌く、安心安全な精肉が自慢。店内で焼く焼き鳥も旨い。揚げたてのコロッケと唐揚げは、学校帰りの定番のおやつ

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０２３８

焼き鳥
やまぶ
焼き鳥・もも焼きなどのテイク・アウト専門店。備長炭でじっくり焼き上げた地鶏のひな串が自慢の一品。

休 水曜日
TEL ０２９７（２２）１４２５

楽器・カメラ・美術工芸品
長田屋
創業享保10年(1725)、土蔵造の店舗が老舗の証し。芸大出身のご主人らの作品も展示され、購入も可能。過去と現在、商いと芸術が交差する不思議な空間をご堪能あれ･･･

休 木曜
TEL ０２９７（２２）０４１４

ブラジル食料品・雑貨
AÇOUGUE TAKARA
店内に一歩入れば、溢れる異国情緒。日系人の多い水海道ならではのお店。ちなみに日本語でＯＫですので、安心してお買い物をどうぞ。

休 火曜日
TEL ０２９７（３０）０２０４

鮮魚・自家製塩辛
清水屋
三代続く老舗の魚屋。仕出し・弁当もこなすフットワークの良さで造り上げた逸品が自家製の激辛の塩辛。お試しあれ。

休 木曜日
TEL ０２９７（２２）１２１８

田舎味噌
荒井味噌
低塩・長期熟成で仕込む伝統の味「筑波誉」には、創業８０余年の技が生きる。

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０２７４

食べる

食･呑/すし
魚芳　うおよし
三代続く老舗の寿司屋。最近、四代目が修行から戻った。寿司も良いが、鰻が旨いと評判。アジフライなどの定食も可だが、値段は要確認。

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０３５６

食･呑/すし･定食
いさみ寿司
腕は江戸前仕込み、季節毎の新鮮なネタの寿司をお届け。ランチメニューも提供中

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）０３０５

食･呑/ブラジル料理
OPÇÃO
Produtos Brasileiros e Marmitex

プチ海外のランチタイムはいかが？プレート（定食）メニューは ¥500から。塩味の豆スープをかけて食べるご飯が旨い。ブラジル･サイズで、ボリューム満点。

休 月曜日
TEL ０２９７（２２）３６４８

食/うどん・ソバ
喜良久庵
図書館近くにあり、麺と丼のセットが人気。

休 火曜日
TEL ０２９７（２２）２３７３

食･呑/すし
綾寿司　あやずし
休 月曜日
TEL ０２９７（２３）５７１１

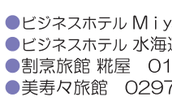
食･呑/居酒屋
養老の滝
駅前にあり、深夜１時まで営業。７６席もある!?

休 日曜日
TEL ０２９７（２２）２１６６

食･呑/居酒屋
浪漫亭
２次会・３次会OKの翌４時まで営業。ランチも始めた。

休 不定休
TEL ０２９７（２２）０２７７

食/ブラジル軽食
ランショネッテ LANCHONETE AMIGOS
TAKARAの店内にある、いわゆるファストフード店。メニューは結構豊富で、手軽にブラジル料理が楽しめる。日本語ＯＫ。



休 火曜定休
TEL ０２９７（２２）３３３０

食･呑/和食・ソバ
割烹旅館 糀屋　かうじや
泊まりもできるが、昼食も絶品の味。お薦めの「千姫御膳」は、自慢のそばと鰻丼のコラボ。

休 日曜日
TEL ０２９７（２２）００２６

旅　館

食･呑/定食･仕出し
山乃井
休 日曜日、祝日
TEL ０２９７（２２）０３７０

食/和定食･うなぎ
丸八
休 月曜日
TEL ０２９７（２２）０７２４

泊まる

旅　館
野村屋旅館
ゆきとどいた おもてなし、落ち着いた風情で おくつろぎの ひとときを…

¥ 和室、1泊2食 ¥6,500円～
TEL （０２９７）２２－０１６５

ビジネスホテル
水海道第一ホテル　MITSUKAIDO DAI-ICHI HOTEL
ゆとりの３タイプ、全１０４室。設備も充実した客室でごゆっくりおくつろぎ下さい。

¥ シングル１人 ¥5,500円～
TEL （０２９７）２３－２０１１

ビジネスホテル
ホテル ルートイン 水海道駅前
落ち着きのある色調でしつらえた客室に、充実の設備。最高のプライベートタイムをお届け致します。

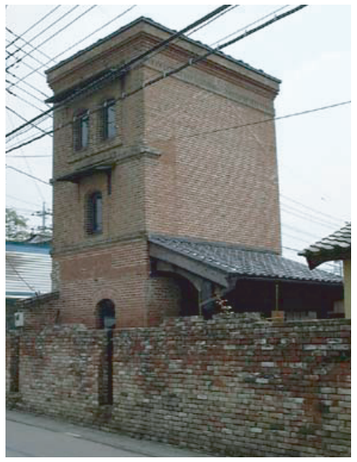
¥ シングル ¥6,500円～
TEL （０２９７）３０－００１１

旅　館
扇屋旅館
¥ 和室、1泊2食 ¥5,600円～
TEL （０２９７）２２－０３５８

- ビジネスホテル Ｍｉｙａ（22）1441
- ビジネスホテル 水海道（23）0151
- 割烹旅館 糀屋　0120-59-0026
- 美寿々旅館　0297（22）0930

お薦め散歩順路　5.1km

寶洞宿畑中蘊蓄堂謹製@2013



◀五木宗レンガ蔵
※登録文化財

水海道河岸には「鬼怒川の水は尽きるとも、その富は尽くることなし」と称えられた豪商たちが店を連ねた。有力な問屋のひとつである五木田家は、代々宗右衛門を名乗り、「五木宗」と称していた。醤油の醸造販売の傍ら廻漕業も営み、会津藩の廻米を扱うなど水海道河岸における水運の中心的な役割を担った。こうした繁栄ぶりを今に伝えているのが、このレンガ蔵である。

▶亀岡町の道しるべ

水海道入口の碑から街道沿いを北へ 500m、天神社を通り過ぎた亀岡会館の角にこの碑がある。文政12年(1829)に建てられ、正面には「十九夜供養」の文字が大きく刻まれる。草書体の文字で刻まれるため読むのは困難であるが、これも道しるべとして活用されていたらしい。北を向く正面には「いしげ・つくば」、東面には「えじまのわたし・のだみち」、西面には「もりや・えどみち」の文字が見える。

ふと考えると、江戸時代の人々はこんな文字を普通に読むことができたのだろうか‥‥と思う。

◀水海道天神社　※市指定文化財

水海道天神社は，菅原道真を祭神とし，後村上天皇の御代(14世紀中頃)に創祀されたと伝えられる。水海道城主田村弾正一族の氏神として崇拝されてきたが，現存する本殿は永禄９年(1566)に当地の豪族の手により再建されたものという。本殿は木鼻・蟇股・斗組・虹梁などの絵模様繰形，垂木の形状に安土桃山期の特色を示すとともに，各部材にも彩色の跡が認められ、創建時は極彩色が施されていたと推察される。背面の羽目板には「虎と竹子」，脇障子には「流水と鳥」、長押には輪違文様などが風蝕の差となって残り，往時の姿を偲ばせている。

▶一六神社（水海道天神社境内）

江戸時代、水海道の町では毎月６回、１と６のつく日に定期市が開かれ、大いに賑わったという。いわゆる「六斎市：ろくさいいち」で、この一六神社がその守り神である。現在も商売繁盛、開運厄除の神として信仰を集めている。

◀芭蕉の句碑（天神社境内ほか）

芭蕉の句を表に飾った碑が、市内に６基ある。幕末から明治初期に建てられたこれらの句碑は、水海道天神社境内に１基、報国寺境内に３基、大楽寺境内に１基、高野町の真宗寺墓地に１基ある。年代の差こそあれ、この道にいそしんだ町の人々が、芭蕉を尊び、常に俳諧の正風を志したことを推察させる。

▶「水海道入口」の碑

国道２９４号線の旧道沿い、天満町の堀越商店さんの前にある。きれいに整えられた植え込みの中に高さ１ｍほどの「月読尊」の碑がある。天保４年(1833)に建てられたもので、左面には大きく「水海道入口」と刻まれている。江戸から守谷を経由して来た旅人が「水海道に着いた」と、ここで知ることができたのであろう。

◀二水会館　※登録文化財

大正２年(1913)、栄町字宝洞宿に水海道町役場庁舎として建てられた。西洋風デザインのホールを主とし、北側に和室２室が配置されるなど、伝統的技術を持って西洋風のスタイルを具現化させるといった、明治初期の擬洋風建築に通じる意匠が感じられる。　昭和59年(1984)に、市立図書館敷地内に移築し、保存･活用に努めている。

◀水海道河岸跡

鬼怒川水運の中継地であった水海道の繁栄を支えた河岸は、大通りを鬼怒川まで抜けたところにあった。最盛期である幕末から明治にかけての時期には、河岸の栄えた当時の遺構は少なく、今は堤防沿い建ち並ぶ冨山運送の倉庫２棟（１棟が明治５年の建築）がその様子を伝える。

◀水神宮

水運の担い手であった鬼怒川筋の河岸講中が、船の通行の無事を祈って造ったもの。安永９年(1780)に建てられた石の祠の壁には水海道をはじめ、宗道(千代川村)・山川(結城市)の川岸連の名を見ることができる。

寶洞宿畑中蘊蓄堂謹製@2012

◀報国寺の五輪塔

本堂前左手の墓地の中央あたりに、古びた五輪塔が４基ある。満足に五輪を備えているのはただ１基で、高さはおよそ１ｍを測る。報国寺には何の記録もなく、「源頼朝の墓」との節もあるが、要するに鎌倉時代の産物ということであろう。

◀小林蔵六顕彰碑（報国寺境内/浄土宗）

幕末から明治初期にかけて活躍した画人で、宝洞宿(現在の水海道宝町)に生まれた。「竹」を得意の画題とし、これを描いては師さえも凌ぐと言われた。自宅の裏庭に数十種の竹を植え、四季折々の風情を写生したという。彼の妻である玉潤も画人として知られており、大楽寺には蔵六夫妻の供養碑もある。

▲旧製糸工場のレンガ塀

豊水橋の交差点から川沿いの道を北に行くと、レンガ塀の続く坂道となる。昔は製糸工場があったということであるが、今は個人の宅地となり、塀だけがその名残をとどめている。

▲諏訪神社

奥まった本殿には幕末から明治の名工である後藤縫之助の龍の彫刻がある。境内にあるケヤキ（市指定文化財）は幹周６．３ｍを測り、町の中でも有数の古木である。

▶豊水橋の三代橋台　※水海道遊泳会発祥之地

鋼鉄製の現在の橋は、昭和40年(1965)に開通した。この橋の下流側には大正15年(1926)に完工したコンクリート橋の橋台と、明治23年(1890)に完工した木橋のレンガ製の橋台が並んで残る。“ほうすいきょう”と呼ばれるこの橋の本来の名は、豊岡と水海道のひと文字ずつを取った“とよみつ”橋である。鬼怒川の水位が高かったひと昔前には、真夏の恒例行事である「遊泳会」がここで行われていた。泳ぎ上手達の晴れ舞台だった。

▼茨城百景の碑

「水海道近郊名所巡り」として、豊水橋・八間堀の桜・弘経寺・報恩寺・累の墓・元三大師・一言主神社・大生郷天満宮などが、昭和２５年に指定を受けたことを示すものである。傍らには昭和１３年１６年の洪水の水位を刻んだ記録碑も移設されている。

▶水災記念碑

昭和１３年に旧水海道町を襲った洪水の記録を伝えるもの。題字は郷土の大政治家・風見章の筆による。傍らにはこの地の治水に尽力した幕吏・市村宗四郎を祀る石祠も残る。

▼大楽寺（浄土宗）

ここにも水海道で活躍した人々の顕彰碑や供養碑が残されている。小林蔵六・玉潤の供養碑、芭蕉句碑のひとつ、不二講の行者として有名な鈴木頂行の碑などである。

◀八幡神社

※市指定文化財

八幡神社は、戦国時代には当地の城主田村弾正の守護神として祀られていたが、天正５年(1577年)の下妻城主多賀谷氏との戦いにより城主が戦死すると、次第に荒廃していったという。その後、水海道村名主秋葉権左衛門や村民五木田弥次兵衛が再興のために奔走し、延宝５年(1677)に御城(字八幡畑)から現在の地に移して祀ったと伝えられる。

◀旧報徳銀行

報徳銀行は明治31年に設立され、二宮尊徳による報徳思想を掲げて銀行業を営んでいたという。六大都市をはじめ関西・四国・九州に２２の店舗を持ち、そのひとつとして常総地方有数の商業地であった当時の水海道町にも進出した。水海道支店の設立は大正元年(1912)と言われるが、この煉瓦造の店舗は大正12年(1923)頃に当初の位置から場所を移して建てられたものという。つくば銀行の店舗として使用されてきたが、平成15年(2003)の関東銀行との合併がにより８０年に及ぶその使命を終えた。

▶かまやばし

釜屋堀は江戸時代から現在まで、市街地の排水を引き受けてきた水路である。釜屋という大店の横を流れていたことがその名の由来という。今では道路の側溝にしか思えない水路を渡る「かまやばし」は、明治42年(1909)の建造である。明治人の洒落気というべきか、それだけ大切な水路だったのか‥‥難問である。大通りとプラザ通りの交差点、カシワヤ薬局の角にある。

▲暦応年号のある板碑

（報国寺境内/浄土宗）

本堂に向かって左側の植え込みの中には、暦応５年(1342)の年号が刻まれた青色板碑がある。残念ながら、現在は摩滅してやや判読しづらい。暦応は南北朝時代の北朝年号であり、「この周辺は北朝方が多かったのかな？」などと考えながら見ていると興味深い。

▼矢口金物店（大通り）　※閉店中

明治５年(1872)の建築。商都・水海道の町並みを伝える土蔵造店舗としてもっとも良く旧状を維持している。建築様式にも地方色豊かな技法がみられ、梁に使われるケヤキ材の太さは“見事”としか言いようがない。